

町民の皆さまとともに 活力あるまちづくりを

置戸町議会議員 佐藤 純一



新年、明けましておめでとうございます。

輝かしい平成29年の新春を、ご家族の皆さまお揃いでお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は地球温暖化に一因があると思われるような、1月のオホーツク管内を中心にした暴風雪と、まだ記憶に新しい8月の台風による大雨がありました。降り続いた雪により道々も通行が出来ない孤立状態を余儀なくされました。また、100ミリを超えた2度の大雨では河川の氾濫や土砂災害の危険もあり、各地区に自主避難や避難勧告が出され、避難所が開設されました。北海道に住むものとして、冬に備える気持ちはありますが、昨年大雨については、まさに想定外の出来事であり、置戸町では人的被害はなかったものの河川を始め道路などのインフラや畑・農産物にも大きな被害をもたらす結果となりました。

私の住む勝山地区では4年前の10月の時ならぬ雪により発生した停電の教訓を踏まえ、地域に多くの高齢者が安全に生活するための対策として地区連合会が中心となり自主防災組織を立ち上げ毎年避難訓練を実施しています。3年目の訓練前に発生した8月の大雨時には、それまでの2度にわたる訓練の成果が十分に発揮できたとは言い難いところもありましたが、その後、11月に行われた避難訓練の反省会では実際に災害に直面したこともあり、防災組織の必要性と具体策について身近な問題として話し合うことができ、個々人の災害に対する意識の高まりとともに、過去の訓練が生

かされていると改めて感じたところです。

さて、昨年からはまりました勝山温泉「ゆうゆ」の工事が4月中のリニューアルオープンを目指して予定通りに進んでいます。昨年、その様子が新聞に記事として取り上げられ、町外からも再開にあたり多くの問い合わせが役場などにあり、関心の高さを窺わせています。昨年11月に開かれました地域懇談会でも井上町長や担当課長からそれぞれ経過について説明がありましたが、委託先については、業界や、人を問わず置戸の力を結集しての経営体になりたいとの町長の考えに賛同した人たちが組織し、一般社団法人を立ち上げ指定管理により経営を行うことで進んでいます。

年も新たになり、いよいよ経営の中身が見えてくる段階となりますが、ビジネスのノウハウを持った専門企業とは違った新鮮な発想や取り組みにより、活気ある施設となることを願うと同時に、行政や町議会はもとより、町民の皆さまにとっての意識改革、すなわちどのような応援ができるかが勝山温泉「ゆうゆ」の今後に向けての一つのキーワードになると思います。

防災意識の必要性と「ゆうゆ」へのエールを込めての与えられた紙面となりましたが、今年に続く関心事と、期待感ということでご理解をいただきたいと思ひます。

結びになりますが、町民の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、置戸町議会からの年頭のご挨拶といたします。